



ミャンマー（ビルマ）第二の都市マ
ンダレーからバスで北へ約一時間の
町、タウンビョン。ここでは毎年8月、
ナツ神と呼ばれる精霊信仰の祭りが
約一週間にわたって催される。

戒律が厳しい南方上座部仏教の国
として知られるミャンマー。敬虔な
仏教徒は、毎日、仕事や学校行き
帰りにバゴダ（仏塔）の前で手を合わ
せる。だが、この国では表の仏への
信仰に対して裏の精霊ナツ神が存在
する。現世利益を求めない日々の仏
教的な生活とのバランスを保つため、
祭りでナツ神を呼び戻し、人々の煩
悩を象徴するかのようなたげを開
く。

主役は何といっても、全土から集
まった同性愛者たちが扮する、霊媒
師「ナツカドー」。人間とナツ神の間
を取り持つ彼らは、たばこをくわえ
体中に高額紙幣をまとい、酒で酩酊
状態となり歌い踊る。人々は、ナツ
神が乗り移ったナツカドーに家族の
健康を祈り、さまざまな日常生活の
悩みを相談して、日々の不安を和ら
げる答えを聞き出そうとする。

特に、修行僧が僧院にこもって修
行に専念する「雨安吾」のこの期間は、
仏教的な行事や祭りが控えられる。
そのため、全国から集う人々は、ナ
ツカドーに負けじと踊り回って恍惚
状態となり、羽目を外すことを楽し
んでいる。

春 夏
秋 冬

11

8月 ナツ神の祭り

霊媒師が歌い踊る 精霊信仰のうたげ



文・写真=宇田 有三

フォトジャーナリスト。中米や東南アジアの軍事政権、貧困を取材。写真集『ビルマ 軍事政権下に生きる人びと』、人権学習教材『ゴミに暮らす人びと』など。